

鳥獣センター通信

2016
4
Vol.15

発行元
鳥獣被害対策支援センター
電話 0982(0)22000

【鳥獣被害対策支援センター】

<https://www.pref.miyazaki.lg.jp/contents/org/kankyo/shinrin/mfc/damagesupport/index.html>

新年度、新たな体制でスタート！

「鳥獣被害対策支援センター」も、スタートして5年目を迎え、新体制となりました。今年度も頑張ります！

鳥獣被害対策支援センターにはセンター長と、3名の専任職員が常駐しています。当センターは、①被害対策の技術的支援 ②人材の育成(マイスター) ③被害対策に関する調査・研究 を3本柱に取り組んでいます。



鳥獣被害対策
スペシャリスト
井上雅央氏



↑現地研修の様子

鳥獣被害対策
マイスター研修↓



(増田副センター長)
「鳥獣対策は、無理せず出来ることから！」それが長続きするコツです。皆さん一緒にがんばりましょう。



(大岩根 鳥獣センター長)
センターでは新たな視点に立った鳥獣被害対策の普及に努めています。被害対策の相談には丁寧な対応に心がけます。よろしくお願ひします。



(末吉主査)
3年目になりました。被害が減ることが、農林家の収入増につながり、地域が元気になるよう、がんばります。



(内田副主幹)
集落へるみの取組で鳥獣被害を減らしましょう。マイスターの方々も出来る範囲で協力をお願いします。

電気柵設置の注意点について

- ①電圧は4,000V以上を確保する
- ②地上から20cm間隔に線を張る
- ③ガイシはほ場の外側に向ける
- ④定期的に電圧を測定する
- ⑤雑草管理はしっかりする
(漏電しやすい「つる性植物」注意)
- ⑥道路の際に柵を立てない
(舗装から50cm以上空ける)
- ⑦アースをしっかりと深く広くとる

電気柵は、設置の仕方方を誤ると効果が無いばかりか、柵線を恐れない獣を育てることとなり、逆効果となります。これから設置を予定されてる方や設置済みの方には、今一度、チェックポイントをご確認いただき、正しい設置を心掛けてください。

被害対策に関する問合せ
西臼杵支庁及び各農林振興局
各市町村・各農協・各森林組合 等

☆鳥獣被害対策地域特命チームだより☆

児湯地域

○平成27年度の捕獲対策について

〈有害鳥獣捕獲への迅速な対応〉

①アライグマ捕獲の取り組み

平成27年12月12日に西都市大字穂北において、アライグマ1頭が目撃、写真撮影されました。捕獲活動を迅速に行うため、西都市役所において対策会議を実施し、有害鳥獣捕獲許可のもと箱わな3基を設置し、併せて暗視カメラ2台も設置しました。カメラメスルコーンが良いとの情報がありましたので、エサとして使用しました。現在も関係者と定期的に連絡を取り、情報把握に努めています。

②児湯管内では、「タヌキが出た」等の問い合わせが数多く寄せられます。いち早く現場に向かい聞き取りやその後の対応を説明するなど、市町村と連携し迅速な対応を心掛けています。

〈捕獲活動の推進〉

①猟友会との連携

例年12月から年度末にかけて支部毎に総会が開催されます。平成27年度は14支部の総会が開催され、警察・市町村・振興局の職員が参加しました。狩猟者の生の声を聞くことができ、情報交換を行うとともに、有害鳥獣捕獲への協力要請も行っています。

このような機会や林業座談会等を通して、狩猟免許取得の推進を呼び掛けており、平成27年度の取

得者は62名(30代以下・13名)となりました。これからも、様々な機会を通して担い手確保に努めます。

②地域ぐるみの捕獲

地域一体となった捕獲活動を進めており、現在7地区でチームを編成しての捕獲活動が展開されています。

また、鳥獣被害対策モデル集落である木城町駄留地区の自主的な捕獲活動の展開や里山を活用した地域おこし活動を支援しています。



箱わな設置(西都市)



大河内支部総会での集合写真

南那珂地域

○「3.5m型簡易防鳥網」による鳥害防止効果の実証

南那珂地域は、極早生うんしゅうや日向夏、きんかん等の露地かんきつ産地となっており、近年、ヒヨドリやカラス類による食害が多く、被害防止対策を求める生産者の声も大きくなっています。このため、南那珂地域特命チームでは、鳥獣被害対策支援センターと相談し、農研機構が開発した簡易防鳥網による効果実証試験に取り組みました。

今回実証した簡易防鳥網は、直管パイプと弾性ポールを利用し、樹高3.5mまでの果樹園に对应可能としたもので、設置費用は表1に示したようになりました。

設置は11月12日、前年にヒヨドリ被害の多かった日向夏ほ場で行い、鳥獣被害対策支援センターや南那珂農林振興局、日南市役所の職員10名で作業しましたが、直管パイプの打ち込みやネットの展帳など、予想以上に時間がかかりました。

設置後は、被覆しなかった部分と効果を比較しましたが、本年度はヒヨドリによる被害が全体的に少なかったこともあり、両区ともに被害はありませんでした。また、生産者から、「防

除や収穫作業では、ネットの扱いに注意がある。」との意見がありました。実証ほ場は国道に面しており、果樹生産者の注目を集めるなど、展示効果も高くなっています。

表1 3.5m型簡易防鳥網概算経費 面積4a

資材名	規格	本数、個数	金額(税込)円	
			金額(円)	
弾性ポール	5.5mm×3m	140	15,400	
強力防鳥網	幅27m×長さ54m、30mm目合	1	37,000	
直管パイプ	19mm×5m	35	31,500	
マイカ線	巾10mm、2芯、500m巻	1	3,500	
水道用ホース	(廃材利用)		0	
				87,400



写真1 簡易防鳥網設置後の状況(日南市南郷町賛波地区)